

当博物館における図書業務について

山崎 真治¹⁾

About the Book Management of Our Museum

Shinji YAMASAKI¹⁾

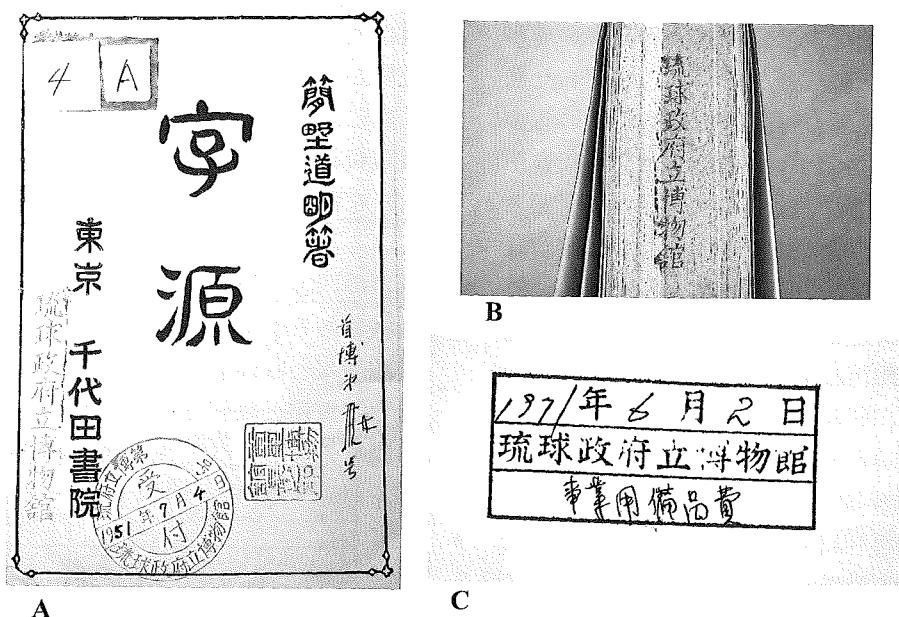
要旨

当博物館には、推定5万冊を越える図書が収蔵されており、2007年度以降、系統的な図書の整備と公開を推進してきた。その結果、現在（2011年12月）までに3万8千冊を越える図書について整備を完了した。本稿では、当館における図書登録作業と図書の管理運営の実際について記載するとともに、当館所蔵図書の特質と図書業務を推進するまでの課題についても言及した。

1. はじめに

当博物館には、主として琉球政府立博物館（1955年に首里博物館より改称）時代以降に収集された膨大な数の図書が保管されている（写真図版1）。現在のところ、その全容を詳細に把握するまでには至っ

ていないが、図書の総数は概算で5万冊以上に達するものと推定される。また各地の博物館や美術館をはじめ、地方自治体等から毎年多数の図書の寄贈を受けており、その冊数は年々増加の一途をたどっている。



写真図版1 首里博物館・琉球政府立博物館時代の蔵書の装備状況

A：首里博物館時代に収集された図書。「首里博物館長之印」の印影が見える。

B：小口に押印された「琉球政府立博物館」の印影。

C：琉球政府立博物館時代に購入されたことを示す印影とメモ書き。

1) 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

Okinawa Prefectural Museum & Art Museum, 3-1-1, Omoromachi, Naha, Okinawa, 900-0006 Japan

2007年以降、当館では収蔵図書の系統的な整理、登録作業に取り組んできた。特に、従来部分的であった図書のデータベース化作業を組織的に実施し、現在（2011年12月）までに3万8千冊を超える図書についてデータベース化および配架作業を完了することができた。その一部については当館内の情報センターにて一般に公開しており、その他の図書についてもパソコン上で検索可能となっている。現状では、自然史関係図書の一部や、発掘調査報告書の大部分については未登録の状態であり、隨時整備を進める予定である。

図書業務は、当博物館の運営に関わる重要な業務の一つであるが、ある程度の専門性が要求される込み入った業務でもあるので、以下に当博物館における図書業務の実際について概略を記載し、今後の図書業務向上への一助としたい。

2. 図書登録の流れと公開

当博物館では、年間を通じて多数の図書資料を収集している。最近では図書だけでなく、DVDやCDの受け入れも多い。図書の収集形態としては、寄贈もしくは購入が一般的であるが、指定管理者制度が導入されている当館では、指定管理者の収集した図書もある。予算上、図書の購入費は限られているので、当館の図書コレクションの大部分は寄贈図書からなる。寄贈者としては、①他の博物館、美術館および地方公共団体等、②個人、③出版社（当館所蔵写真等を利用した成果品の寄贈）などがあるが、圧倒的に多いのは①である。②については、2007年11月の博物館新館開館後に数名の方々から数百冊規模の寄贈をいただき、新館開館後の受け入れに限って見ても、3000冊近い寄贈をいただいている。③については、当館では年間150件を超える外部（出版社等）からの写真資料利用申請があり、その成果品として刊行物の寄贈を受けている。

当博物館が収集した図書は、受付・回覧後、登録作業を行うことになる。パソコン上のデータ作成、図書本体の装備を経て、所定の場所に配架される。配架場所は主に、①博物館研究資料室、②美術館研究資料室、③情報センター開架、④情報センター書庫に分けられる。館職員は全ての図書を利用することが可能であるが、研究資料室配架図書には

貴重本や一般には利用頻度の低い専門書なども含まれるため、一般の博物館利用者には③および④の図書が公開されている（情報センター書庫に配架されている図書の利用は、受付での申請が必要）。

3. 図書登録作業について

通常の図書登録作業は、当館の情報センターで実施している。ここでは、①分類、②登録、③装備、④配架の順に業務の概要を記載する。

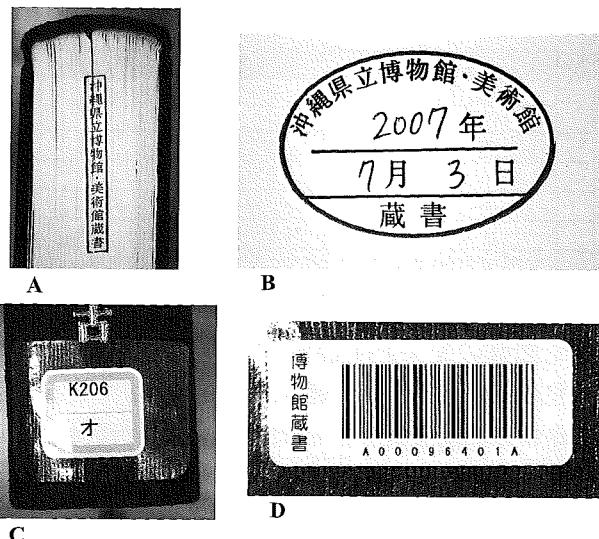
まず①分類であるが、当館では沖縄県立図書館と同様に、図書の内容によって郷土図書と一般図書に大別している。郷土図書は沖縄に関する図書や沖縄のことについて触れた図書で、一般図書はそれ以外の図書である。さらに、一般図書については日本十進分類法（NDC：日本図書館協会、1995）、郷土図書については県立図書館の郷土図書十進分類法に基づいて細分類を行っている。このほか特殊な例として、当館の収蔵図書において大きなウエイトを占める発掘調査報告書については、請求記号の前に（A：Archaeology の頭文字）を付して、他の図書とは区別している。また、個人からの寄贈図書のうち、規模が大きく別置する必要のある場合は、特別な請求記号を付したものもある。

次に②登録であるが、現在博物館で運用している収蔵資料データベース（博物館・美術館情報システム）を使用して、パソコン上で書誌データを作成している。入力項目は40項目ほどである（第1表）。各項目の内容は通常の図書館等のデータベースとほぼ同様であるが、現行の収蔵資料データベースでは、書誌情報と収蔵情報の区別が行われていないために入力が煩雑となっており、改善が必要と考えている（現行のデータベースでは、寄贈元の異なる同一図書を登録する際に、別々にデータを作成する必要が生じる）。

③装備については、A 蔵書印の押印、B 図書ラベルの貼付、C バーコードの貼付、D ブッカー等の装備がある（写真図版2）。A 蔵書印は小口（天）と奥付ページに押印し、後者については登録年月日を記入する。B 図書ラベルは2段緑色のものを使用し、図書の背に貼付する。C バーコードについてはNW7を使用し、博物館と美術館では異なるスタートストップキャラクタ（博物館はA、美術館はB）を利

第1表 データベース入力項目

入力項目	作成データ
登記番号	1
管理区分	博物館
受理次第	自館発行
受入年月日	1999/08/03
ジャンル区分	民俗
ジャンル	
取得数	4
一般公開禁止	
書名	三線のひろがりと可能性展 特別展
書名フリガナ	サンシン ノ ヒロガリ ト カノウセイ テン ト クベツテン
シリーズ名	
シリーズカタカナ	
シリーズ番号	
書籍サイズ縦	30
書籍サイズ横	
書籍頁数	79
提供者所属	
提供者氏名	
提供者住所	
提供者電話	
廃棄年月日	
廃棄理由	
著者	
著者フリガナ	
編集者	沖縄県立博物館
編集者フリガナ	オキナワ ケンリツ ハク ヅッカン
監修者	
監修者フリガナ	
翻訳者	
翻訳者フリガナ	
請求番号	K76
郷土地域請求番号	オ
対象地域1	
対象地域2	
対象地域3	
I S B N	
発行年月日	1999/08/03
出版者	沖縄県立博物館(那覇)
出版者フリガナ	オキナワ ケンリツ ハク ヅッカン
テキスト言語	日本語
原文の言語	日本語
媒体種類	図書
資料の種類	図録
備考	
内容細目	ごあいさつ / 三線の型と各 部名称 / 沖縄県指定有形文 化財としての三線 / 図版 / 図版解説 / 三線の来た路 / 三線にまつわる話 / 沖縄芸 能の中の組踊 / 三線音楽の 未来へ / 三線関連略年表 / 三線関係書誌一覧 / 図版一 覧 / 協力者一覧。園原 謙 //著 / 金城 厚//著 / 太 田 健一//著 / 池宮 正治 //著 / 當間 一郎//著。



写真図版2 現在の図書の装備状況
A: 蔵書印1（小口（天））、B: 蔵書印2（奥付頁）
C: 図書ラベル（背）、D: バーコード（裏表紙）

用している。数字は8桁で、前6桁が登記番号、後2桁が冊数を示す。図書ラベルとバーコードについては、現在使用しているデータベースには図書ラベルやバーコード出力機能が備わっていないため、やむなく専用のソフトウェア（現在はラベルマイティ）を利用して出力している。また、データベースソフトとラベル作成ソフトとの間でデータの仲介を行うため、独自に作成したプログラム（Visual Basic）も使用している。D ブッカー等の装備については、情報センター開架に配架する図書は、盗難防止チップを貼付した上でブッカーを装備している。また、情報センターの開架図書のうち、利用頻度が高いものの中には痛んだものや破損したものもあり、修理修復作業も必要となっている。

④配架については次項で詳しく述べるので、ここでは触れない。

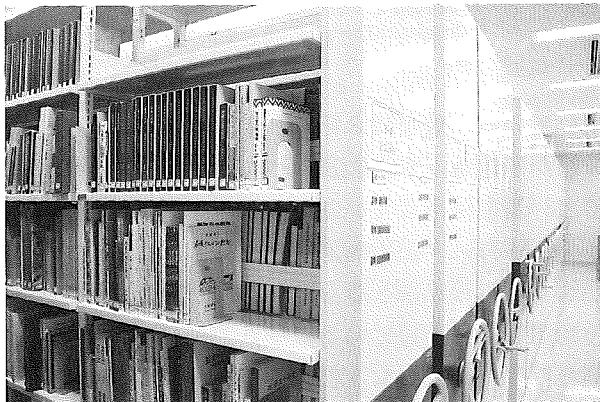
以上が通常の図書登録作業の流れであるが、これに加えて2009～2011年度には、緊急雇用創出事業を利用して、既存の未登録図書（大部分は博物館旧館から引き継がれた図書）についても登録・配架作業を実施した。新館移転当初、図書は博物館学芸員の担当分野ごとに配架されていたが、2007年度以後、データベース化の完了した図書は順次十進分類に基づく配架へと変更している。第2表のように当博物館の各分野と十進分類とはおおむね対応可能なので、登録後も配架状況に大きな混乱は生じていない。

第2表 分野・請求記号対応表

分野	一般図書	郷土図書
自然史 (生物・地学・人類)	4	K4
歴史	2	K2
美術工芸	7	K7
考古	Aシリーズ	K200.2
民俗	38など	K1、K8など
教育普及		

4. 図書の配架および管理状況

登録・装備された図書は、館内の適切な場所に配架される。配架場所は主に、博物館研究資料室、美術館研究資料室、情報センター開架、情報センター書庫の4ヶ所である（写真図版3）。



写真図版3 博物館研究資料室の配架状況

博物館研究資料室は学芸業務に直接関する図書を収蔵する図書室で、博物館旧館から引き継がれた図書の大部分が収蔵されている。一方、情報センターは公開された図書室で、一般利用者の図書閲覧のための施設である。指定管理者の担当職員が常駐し、来館者へのレファレンスや図書業務、各種受付などを行っている。複写のためのコピー機も備えられている。博物館新館建設にあたってまとめられた『展示実施設計説明書』（沖縄県教育委員会、2004）では、情報センターについて「博物館活動、美術館活動の一環として、沖縄の自然、歴史、文化、美術等に関する情報を収集・発信するとともに、県民の学習・調査研究を支援し生涯学習の振興に資することを目的とする」施設と位置づけている。一般の図書館が広く図書収集を行っているのに対して、当館の情報センターは、博物館・美術館の機能・役割を踏まえた「専門図書館」として位置づけられるものであり、

情報センターの図書収集方針もこれに従っている。

情報センターには、2007年度の開館あたり新たに購入した図書約3900件をはじめ、一般利用者において利用頻度の高い図書（当館図録等）を配架している。また、図書以外のDVDやCDについても管理の都合上、主に情報センターで保管している。

このほか、図書の保管業務の一環として、バーコードリーダーを利用した棚卸し作業を年1回程度実施している。2007年度以降はバーコードを導入したことにより、図書の点検作業は格段に省力化されたが、現状のデータベースはバーコードに対応しておらず、照合がスムーズに行えないなどの課題も生じている。

5. 当館収蔵図書に関するデータ解析

以下では、現在までに作成できた約3万8千冊のデータベースを利用して、当館収蔵図書に関する各種データを概観してみたい。なお、ここで扱うデータには、現在未登録の自然史関係図書の一部、および多数を占める考古関係の図書が含まれていない点に注意されたい。

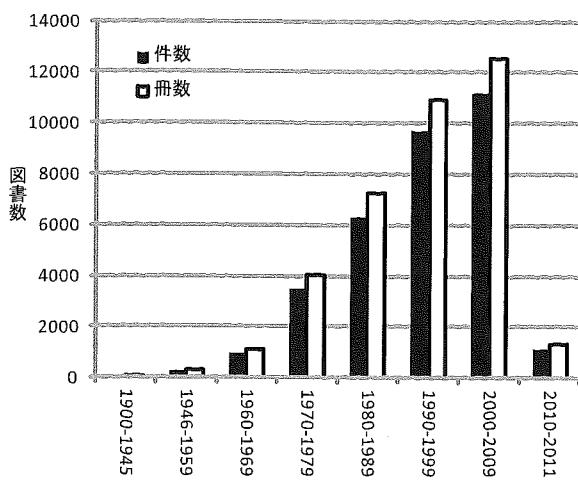
5-1. 図書冊数の推移

1967年度の館報に記載された蔵書数は421冊であった（琉球政府立博物館、1968）が、その後、蔵書数は加速度的に増加の一途たどっている。当博物館における収蔵図書冊数の推移を概観するために、図書の刊行年ごとの冊数を第3表および第1図に示した。それによれば、1960年代には100冊／年程度であった図書数が、2000年代には1100冊／年と、約8倍になっている。現時点（2010年度）での、発掘

第3表 刊行年別図書数の推移

刊行年	件数	冊数
1900-1945	66	72
1946-1959	296	317
1960-1969	970	1109
1970-1979	3483	4058
1980-1989	6303	7231
1990-1999	9681	10957
2000-2009	11169	12547
2010-2011	1122	1311
不明	552	675

※件数は作成した書誌データの数、冊数は実際の保有冊数。



第1図 刊行年別図書数の推移

調査報告書や定期刊行物等を含めた図書受入冊数は、未登録分まで含めて年間1500冊程度に達しているのではないかと思われるが、受入冊数がこの勢いで増加していくれば、年間2000冊を超える日も遠くない。しかし、当館の図書収蔵量には限界があり、今後の図書の収集方針についても検討が必要と思われる。

5-2. 請求記号別の数量

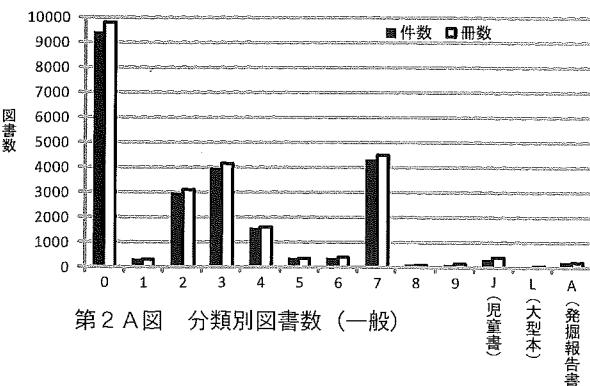
次に、請求記号別の図書件数および冊数を見ておきたい。第4A・4B表、第2A・2B図には、一般図書と郷土図書に分けて請求記号別の図書数を集計した。この集計によれば、一般図書と郷土図書の比率は、66:35で、一般図書では0(総記)、2(歴史・地理)、3(社会科学)、7(芸術)が多く、郷土図書でも同様の傾向を示す。0類が多いのは、こ

第4A表 分類別図書数(一般)

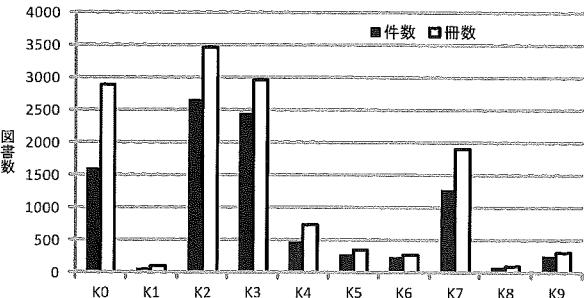
一般図書	十進分類	件数	冊数	% (冊数)
	0	9396	9808	38.9
	1	313	322	1.3
	2	2981	3108	12.3
	3	3958	4139	16.4
	4	1604	1621	6.4
	5	365	372	1.5
	6	374	388	1.5
	7	4347	4490	17.8
	8	112	129	0.5
	9	154	158	0.6
	J(児童書)	314	431	1.7
	L(大型本)	20	20	0.1
	A(発掘報告書)	221	221	0.9
	合計	24159	25207	100.0

第4B表 分類別図書数(郷土)

郷 土 図 書	十進分類	件数	冊数	% (冊数)
	K0	1603	2891	22.0
	K1	80	102	0.8
	K2	2666	3467	26.4
	K3	2451	2962	22.6
	K4	475	745	5.7
	K5	288	359	2.7
	K6	252	277	2.1
	K7	1291	1901	14.5
	K8	96	113	0.9
	K9	272	307	2.3
	合計	9474	13124	100.0



第2A図 分類別図書数(一般)



の類に定期刊行物が多く含まれているためである。また実際には、このほかに現在未登録の発掘調査報告書が1万冊程度加わる。

6. 当館収蔵図書の特質と活用に向けての課題

当博物館には、戦前から戦後の沖縄内外の自然、歴史、文化に関する図書が数多く収蔵されており、貴重本も多い。博物館、美術館関係の図録を多く収集していることも、当館の図書の特徴であり、一般的な図書館とは異なる特色ある収集活動が行われてきたと言える。

2007年度以降、筆者は当館の図書業務を担当してきたが、当館の図書業務には大きく見て二つの課題

があると考える。ひとつは、旧博物館から引き継いだ膨大な量の図書を、いかに整備していくかという点である。この問題については、2009年度以降緊急雇用創出事業等を利用して、相当程度、整備を進めることができたが、まだ未整備の資料も多い。これら未登録図書の整備は、今後に残された大きな課題である。

もうひとつは、今後増加の一途をたどるを考えられる図書類への対応の問題であるが、この問題について、筆者は以下のように考えている。すなわち、当館の図書の中心は、他館や地方公共団体等からの寄贈図書であり、特に紀要や年報などの定期刊行物、各地方自治体が発行する発掘調査報告書等は、毎年確実に増加していく。そこで、こうした定期刊行物や発掘調査報告書は他の図書とは別置し、増加に耐えられるような配架をめざしている。一方、単行本や図録等は、これらに比べれば増加の程度は弱いことが見込まれる。収蔵にあたって特に留意すべきは前者の扱いであろう。

大局的な課題は、上記の二点に要約されるが、実際の図書業務における課題は山積しているというのが実情である。現在当館では、図書整理業務を専門とする職員は配置されていないため、日々の業務の中で図書を扱うという状況である。スムーズな図書登録と保管を行うためには、日々の業務の効率化だけでなく、データベースの改善などのハード面での向上も必要である。今後に残された課題は多いが、より良い図書業務の遂行に向けて、本稿がその一助となれば幸いである。

謝辞

2007年度以降の図書業務に係る諸般の作業は、玉城淳子さん、平川千晶さん、城間五百子さん、山城多恵子さん、上原宙児さん、桃原さおりさん、伊藤剛希君、野原典理恵さん、新垣博子さん、照屋亜希子さん、當山央子さん、比嘉恵子さん、浦崎久美子さんをはじめとする方々によって実施された。また、赤嶺敏、久場政彦、園原謙、平川信幸の各氏には様々に御支援、御助言いただいた。当博物館における現行の図書の管理運営体制は、以上の方々をはじめ、これまで博物館図書の管理運営に努めて来られた多くの方々の努力の結果である。末筆ながら、

関係各位に篤く感謝申し上げます。

参考文献

- 沖縄県教育委員会 2004 『沖縄県立博物館新館展示等実施設計説明書（概要版）』
沖縄県立博物館 1996 『沖縄県立博物館50年史』
日本図書館協会 1995 『日本十進分類法 新訂9版』（本表編）・（一般補助表・相関索引編）
琉球政府立博物館 1968 『琉球政府立博物館館報』
No. 1